

モザンビーク

2022年11月30日

海外調査部・マプト事務所

2021年のモザンビーク経済は、新型コロナウイルスの感染拡大から回復し、実質GDP成長率は前年のマイナスから2.3%に転じた。貿易では主力産業である石炭とアルミニウムの世界的な需要回復と価格上昇もあり、輸出額が前年比55.5%増となった。対内直接投資は天然ガスや石炭などの大規模プロジェクトへの投資に加え、運輸・物流分野に対する民間投資も増加し、68.1%増となった。天然ガス開発は、治安悪化の影響で陸上プロジェクトは停止しているが、海上プロジェクトは進展をみせ、2022年より天然ガス輸出が始まる見込みだ。

■新型コロナからの回復をみせるも、北部では治安問題が続く

2021年の実質GDP成長率は2.3%となり、新型コロナの影響でマイナス成長に陥った前年から回復をみせた。四半期ごとにみると、第1四半期が前年同期比0.1%だったのに対し、第4四半期には3.3%まで回復した。

一方、複数の大規模天然ガス開発プロジェクトが進む、北部カーボ・デルガード州では2017年以降、イスラム過激派によるテロ活動が続いている。2021年3月には、エリア1プロジェクトのキャンプ地近郊の港町が襲撃・占拠され、同プロジェクトは事実上の停止状態に追い込まれた。治安悪化を受け、政府は7月以降、南部アフリカ開発共同体（SADC）とルワンダとの共同軍事作戦を展開している。10月には、被害地域の一部で電力供給や道路網の復旧が始まるなど、治安回復・復興に向け一定の成果を上げている。しかし、エリア1プロジェクトの再開時期はいまだ不透明な状態だ。なお、浮体式天然ガス処理施設（FLNG）を採用し、同地域の海上で進められているエリア4コーラル・サウス鉱区は、治安悪化の影響を受けず、2022年1月に韓国のサムスン重工業造船所からFLNGの移送が完了した。現在、天然ガスの採掘・生産に向けた準備が進められており、2022年中に天然ガス輸出を開始する予定だ。

■石炭、アルミニウムの需要回復により輸出は堅調

2021年の貿易（通関ベース）は、輸出額が前年比55.5%増の55億7,900万ドル、輸入額は33.2%増の78億3,700万ドルとなり、ともに前年を上回った。輸出品目別では、石炭が2019年以来の1位となり、2.3倍の14億6,600万ドル（構成比26.3%）だった。次に41.2%増のアルミニウムが13億9,400万ドル（25.0%）で続いた。石炭の増加は、モザンビーク最大の炭鉱であるモアティゼ炭鉱の施設メンテナンスにより生産量が増加したことに加え、需要回復により石炭の2021年の国際価格がオーストラリア産で前年比2.3倍、南アフリカ共和国（南ア）産で82.3%増と大幅に上昇したことも影響した。アルミニウムも同様に、国際価格が上昇したことにより（前年比45.1%増）、輸出額が伸びた。

輸出を国別にみると、14億1,700万ドル（構成比25.4%）のオランダが首位で、南アが9億4,100万ドル（16.9%）、インドが8億5,600万ドル（15.3%）、中国が4億8,900万ドル（8.8%）、ジンバブエが2億1,700万ドル（3.9%）で続く。オランダは、アルミニウムが88.0%、石炭が10.0%を占め、インドと中国は、石炭がそれぞれ73.9%、29.3%を占めた。近隣国の南アとジンバブエに対しては、電力がそれぞれ45.1%、55.0%を占めた。

輸入品目別では、一般機械が前年比15.7%増の11億8,400万ドル（構成比15.1%）、燃料が69.6%増の9億1,900万ドル（11.7%）、建築資材が40.7%増の8億4,400万ドル（10.8%）となった。輸入増は国内の経済活動の活性化を反映したものとなった。

国別では、首位の南アが20億8,100万ドル（構成比26.5%）、次いで中国が8億4,400万ドル（11.0%）、インドが6億7,500万ドル（8.6%）で続いた。

日本のモザンビークへの輸出額は前年比7.8%減の1億2,900万ドルで、輸入は2.6倍の1億4,300万ドルとなった。輸出品目別にみると、自動車は5,354万ドルを記録し、全体の4割以上を占めた。輸入では、石炭が3.8倍の6,900万ドル（構成比48.1%）、非鉄金属鉱（アルミニウム）が10.3倍の3,300万ドル（22.7%）と国際的な価格上昇の影響もあり大幅に増加した。

表1 モザンビークの主要品目別輸出入<通関ベース>

(単位：100万ドル、%)

	輸出 (FOB)					輸入 (FOB)			
	2020年		2021年			2020年		2021年	
	金額	金額	構成比	伸び率		金額	金額	構成比	伸び率
石炭	649	1,466	26.3	125.9	消費財、耐久消費財	1,539	2,056	26.2	33.6
アルミニウム製品	987	1,394	25.0	41.2	コメ	228	342	4.4	50.3
電力	456	570	10.2	24.8	小麦	194	216	2.8	11.3
重砂	254	466	8.4	84.0	食用油	176	320	4.1	81.5
天然ガス	232	271	4.9	17.1	自動車	254	346	4.4	36.4
宝石類 (ルビー、サファイア、エメラルド)	12	158	2.8	1,216.7	医薬品	306	335	4.3	9.3
野菜	58	151	2.7	160.3	中間財	1,784	2,658	33.9	49.0
タバコ	177	144	2.6	△ 19.2	燃料 (原油など)	542	919	11.7	69.6
合計 (その他含む)	3,589	5,579	100.0	55.5	電力	187	254	3.2	35.7
[出所] モザンビーク中央銀行					アルミニウム原料	249	363	4.6	45.8
					建築資材 (セメントを除く)	600	844	10.8	40.7
					資本財	1,083	1,261	16.1	16.5
					一般機械	1,023	1,184	15.1	15.7
					トラクター、トレーラー	60	77	1.0	28.3
					合計 (その他含む)	5,883	7,837	100.0	33.2

表2 日本の対モザンビーク主要品目別輸出入<通関ベース>

(単位：1,000ドル、%)

	輸出 (FOB)					輸入 (CIF)			
	2020年		2021年			2020年		2021年	
	金額	金額	構成比	伸び率		金額	金額	構成比	伸び率
輸送用機器	47,663	53,691	41.5	12.6	鉱物性燃料	18,071	88,795	61.9	391.4
自動車	47,527	53,542	41.4	12.7	原油および粗油	0	19,808	13.8	—
乗用車	24,220	29,317	22.6	21.0	石炭	18,071	68,987	48.1	281.8
バス・トラック	23,282	24,211	18.7	4.0	原料品	29,937	48,462	33.8	61.9
原料別製品	8,225	26,201	20.2	218.6	木材	381	431	0.3	13.1
鉄鋼	6,527	22,656	17.5	247.1	非鉄金属鉱 (アルミニウム)	3,173	32,528	22.7	925.1
電気機器	8,227	14,180	11.0	72.4	原料別製品	5,298	3,699	2.6	△ 30.2
原料品	6,515	11,286	8.7	73.2	非金属鉱物製品	5,298	3,659	2.6	△ 30.9
化学製品	7,518	6,891	5.3	△ 8.3	食料品	3,128	2,401	1.7	△ 23.2
医薬品	6,038	5,869	4.5	△ 2.8	魚介類	3,107	2,119	1.5	△ 31.8
一般機械	7,504	6,439	5.0	△ 14.2	合計 (その他含む)	56,542	143,423	100	153.7
原動機	6,669	1,271	1.0	△ 80.9					
荷役機械	469	4,933	3.8	951.8					
食料品	313	1,286	1.0	310.9					
合計 (その他含む)	140,360	129,455	100.0	△ 7.8					

[出所] 財務省「貿易統計」(通関ベース)よりジェトロ作成

■採掘関連プロジェクトへの投資が関連分野への民間投資も喚起

2021年の対内直接投資（国際収支ベース、ネット、フロー）は前年比68.1%増の51億200万ドルと

なった。採掘分野が23.7%増の32億9,300万ドル（構成比64.5%）だったほか、運輸・物流・通信分野が100倍の16億7,200万ドル（32.8%）と投資が集中した。中央銀行は、天然ガスや石炭など採掘分野のプロジェクトに関わる企業からの要望に応えるかたちで運輸・物流分野への民間投資が進んだと分析している。

国別では、アラブ首長国連邦（UAE）が17億8,200万ドル（構成比34.9%）でトップ。モーリシャスが14億5,100万ドル（28.4%）、南アが11億500万ドル（21.7%）で続く。UAEとは2020年ドバイ国際博覧会（2021年10月～2022年3月）の会期中に、モザンビークのカルロス・アゴステイーノ首相（当時）とカルロス・メスキータ商工相（当時）がそれぞれ同国を訪問するなど、関係が深まっている。

主力産業である石炭とアルミニウム業界では、大きな変化があった。モアティゼ炭鉱とナカラロジスティック回廊を保有していたブラジル資源大手ヴァーレは2021年12月、同社の炭鉱・回廊事業をインドのジンダルグループ傘下のブルカン・リソースへ売却することを発表し、2022年4月に売却を完了した。なお、これに先立ち、ヴァーレとの合弁会社を通じて炭鉱・回廊事業に参画していた三井物産が2021年1月、持ち株をヴァーレに譲渡すると発表しており、同年6月に譲渡が完了した。また、モザンビークのアルミニウム産業を牽引するアルミ精錬企業モザールの筆頭株主の豪鉄鋼大手サウス32は2021年9月、三菱商事傘下のMCAメタルホールディングスを通じて保有するモザール株を追加取得する権利（発行株式の最大25%）を行使したと発表し、2022年5月に16.6%の株式取得を完了した。

主要経済指標

	2019年	2020年	2021年
①人口：3,083万人（2021年）			
②面積：79万9,380km ²			
③1人当たりGDP：500米ドル（2021年）			
④実質GDP成長率（%）	2.3	△1.2	2.3
⑤消費者物価上昇率（%）	3.5	3.5	6.7
⑥失業率（%）	3.47	3.81	3.98
⑦貿易収支（100万米ドル）	△ 2,084	△ 2,294	△ 2,258
⑧経常収支（100万米ドル）	△ 2,934	△ 3,869	△ 3,615
⑨外貨準備高（ネット） （100万米ドル）	3,685	3,904	3,324
⑩対外債務残高（グロス） （100万米ドル）	9,850	10,101	10,392
⑪為替レート（1米ドルにつき、 メティカル、期中平均）	62.55	69.47	65.47

〔注〕①：2017年国勢調査を基にした推計値、⑦：国際収支ベース（財のみ）
〔出所〕①②④⑤：モザンビーク統計局、③：IMF、⑥：世界銀行、⑦～⑩⑪：モザンビーク中央銀行、⑩：モザンビーク経済財務省

（お問い合わせ先）

海外調査部 中東アフリカ課

ORH@jetro.go.jp